

# 触手寄生

為す術なく屈服させられる女魔術師





あら…  
この洞窟は  
地図にないわね

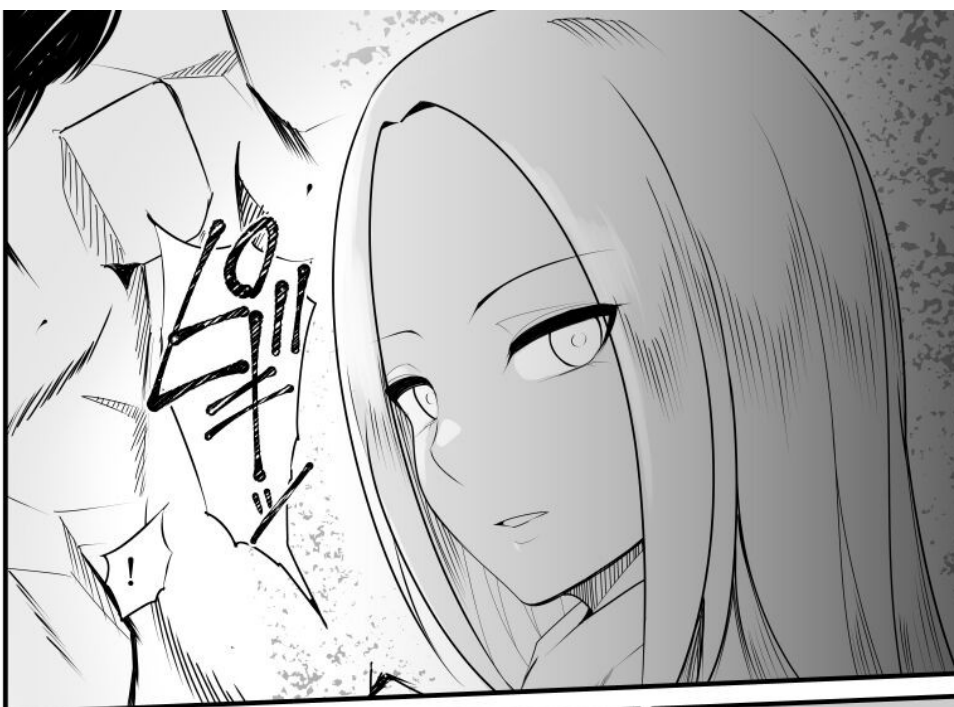
一応確認して  
みましょうか

油断が  
あったのだ

挫折とは無縁  
順調な冒険者人生

その付けが  
最悪の形で  
回ってきてしまった





…目ぼしい  
ものは特に無し

無駄足  
だったかー



…酷い見た目  
人工的に作られた  
魔獣ね

捨てられたのか  
はたまた  
逃げ出したのか



汚らわしい…  
きちんと駆除  
しておきましょう



…あら

足元が暗くて  
気づかなかったわ

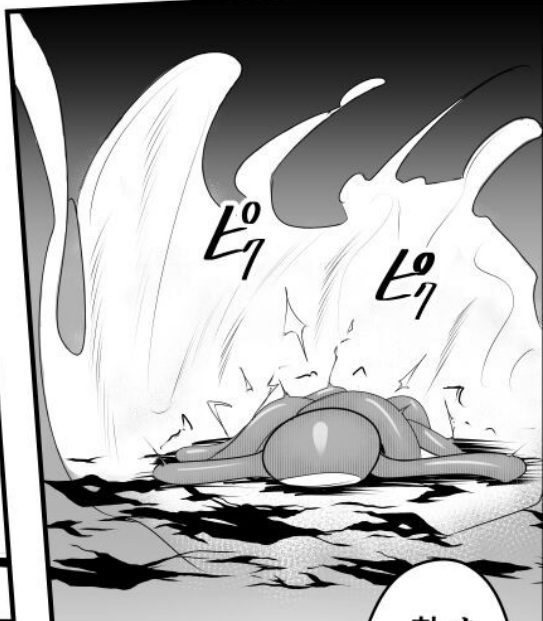


一撃で灰にしてあげる

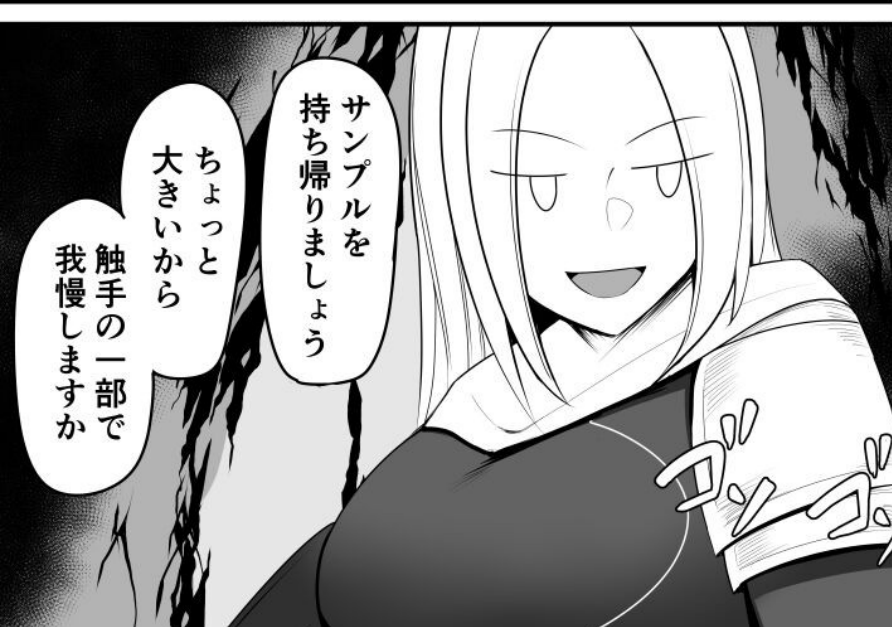


これは思わぬ収穫かも...

研究素材として使えそうじゃない...?



あら...呪文が効いてない...?



サンプルを持ち帰りましょう

ちょっと大きいから

触手の一部で我慢しますか



そうとう高い魔術耐性持ちみたい

吹っ飛んだけど外傷は殆どなし



只のナイフで  
大丈夫かしら

うまく  
切り落とせば  
良いんだけどー



な…何!?  
目が…!

きゃあああ!



え



んがっ!!



いや…落ち着け  
まだ大丈夫…  
力づくで離せる…

おろっ…

おっ



おっ  
おっ  
おっ

し…しまった!  
コイツ…回の中に…!



まずい...  
両手が...



ひっ...!  
くそっ...気が散る...!



落ち着け...落ち着け!  
くっ...触手が邪魔で  
よく...見えな...



おがっ...!

ギギ



私…気を失っていた…?

…肌寒い…あれ…?

…



んっ…

んっ…

んっ…

生暖かい…気持ち悪い感触…

…

…? …? …? …? …?

びしょ

びしょ

びしょ

びしょ

びしょ



何何何何何!!  
—まずいまずい  
まずいまずい!



揺  
揺

両手が全然…  
動かな…くそっ  
外れない…!

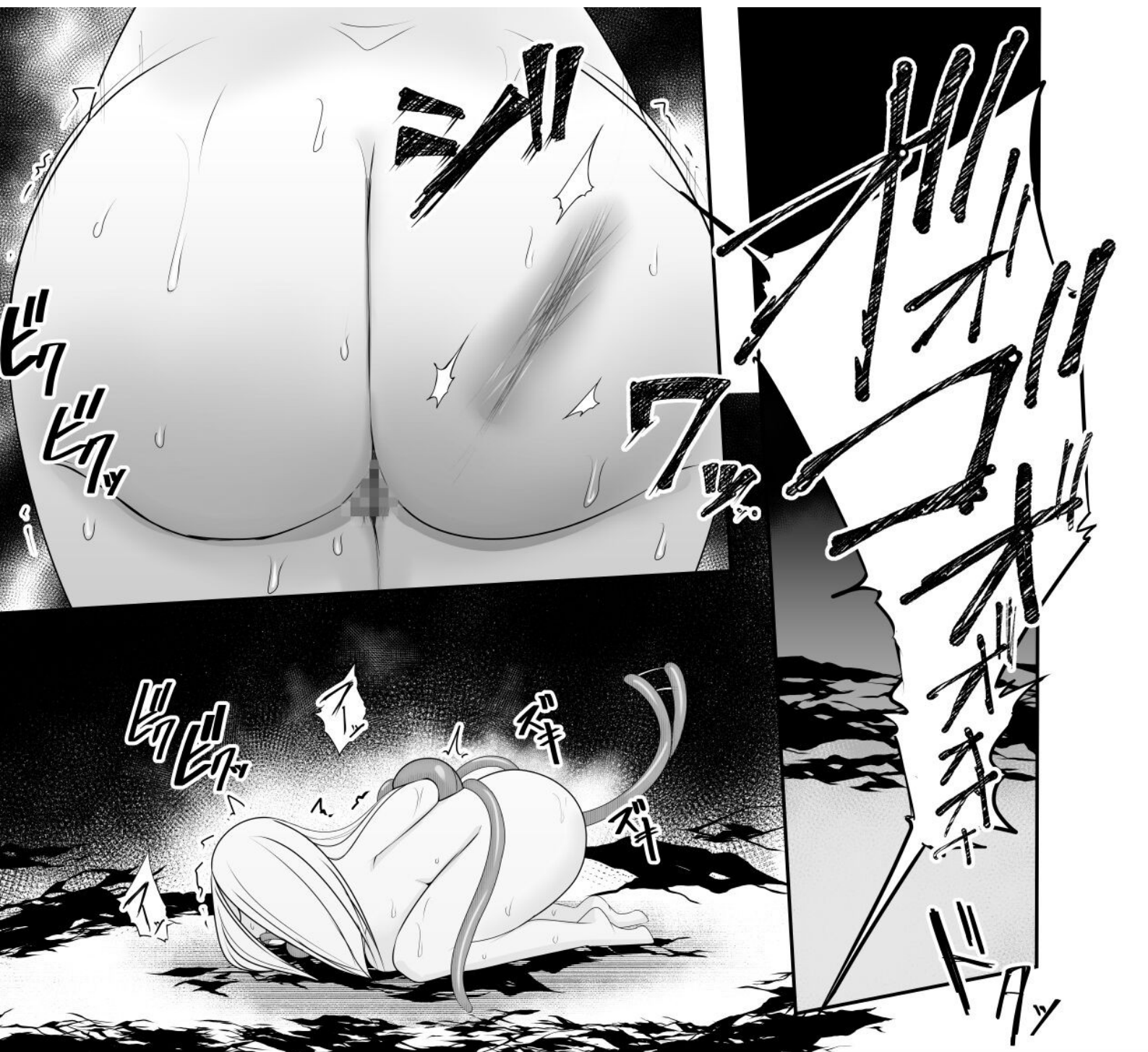


『黙れ』



愚かな宿主に  
不快感を  
伝えるための

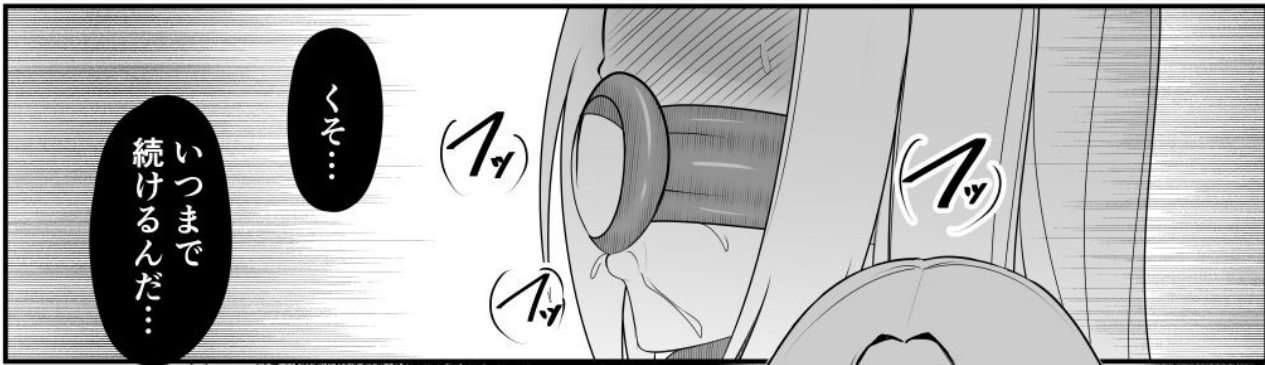
触手体にとっては  
何という事はない  
一撃だったが



どちらが主導権を握っているかを叩き込むには十分であり

この日から女魔術師の新しい生活が始まった





いつまで  
続けるんだ…

くそ…

ア

ア

ア



触手の意のまま  
身体を動かすよう

続けられる  
反復訓練

命令は  
敏感な部位への  
刺激で伝えられる



ア

ア

ア

ア

ア

ア

ア

少しでも遅れたり  
反抗的な態度を取れば

すぐさま懲罰が  
行われる

余計な事を  
考える余裕などない

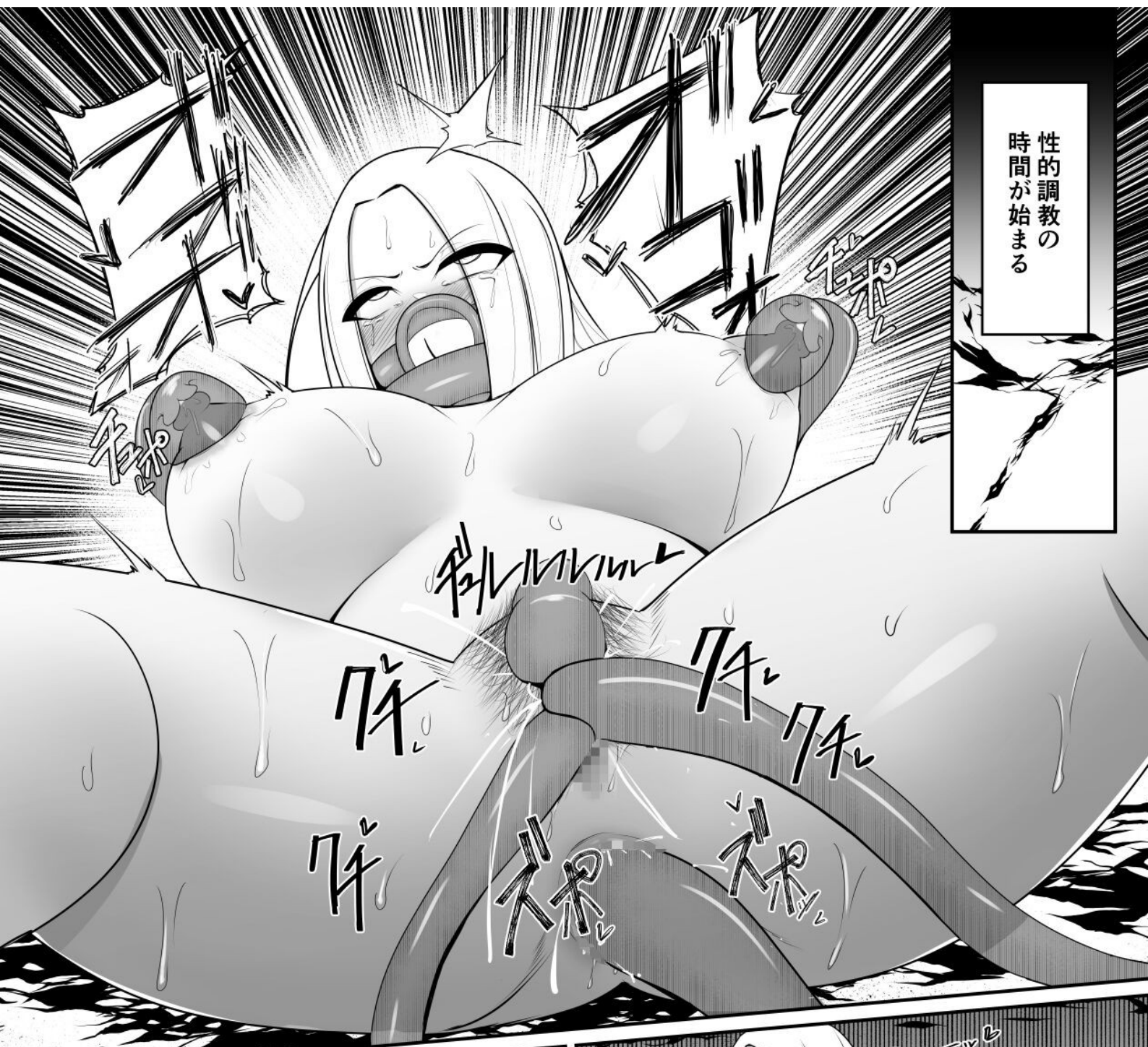
命令に  
従うことだけに  
集中し

悲鳴か嬌声か  
分からない声を上げ続け

臀部を  
真っ赤に  
腫らした所で

ようやく  
解放され

性的調教の  
時間が始まる



ほんの僅かな  
抵抗ですら



許されない





僅かに残る  
プライドを  
打ち砕くような

ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ

無様な姿を強制され  
犯されること  
さらに数時間

何十回と体液を  
放たれ続け

失神と覚醒を  
繰り返し

地獄のような  
一日が終了する

触手体が  
ようやく  
満足した頃





宿主であり  
生処理道具としての  
獣以下の生活

それでも必死に  
正気を保ち続け  
救出を待つものの

いつしか  
時間の感覚も  
薄れ始め

すっかりしろ  
…希望を…  
捨てるな…

必ず…  
…誰かが…

限界を  
迎えようと  
していた





救助は…  
…来ない…

…正気を保つのも  
そろそろ…限界…



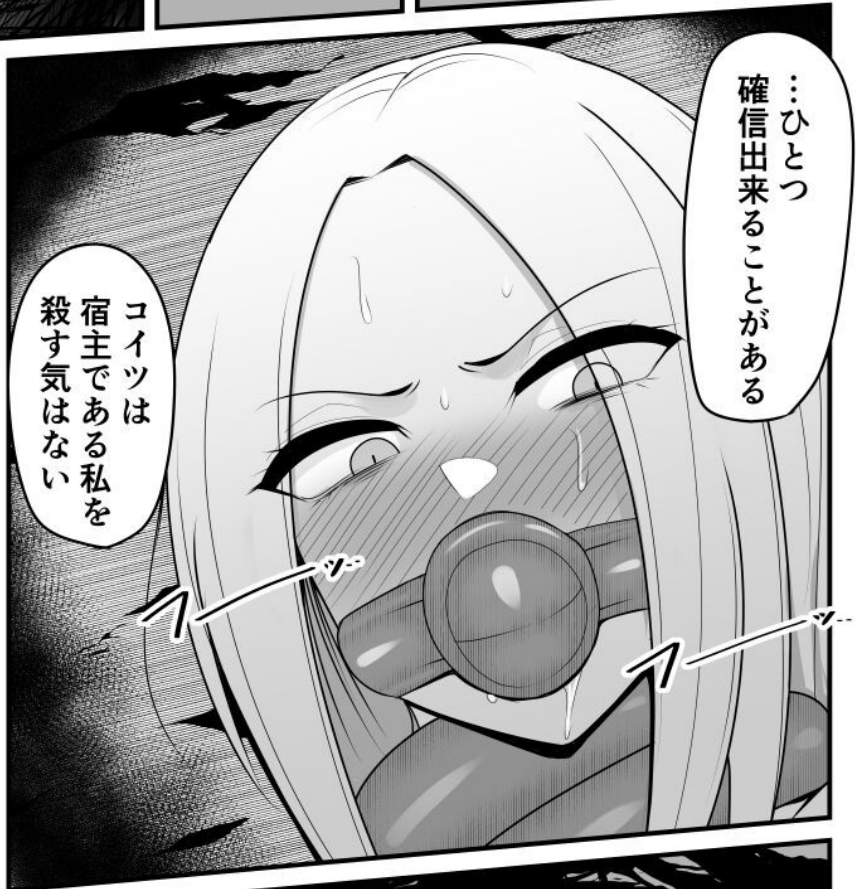
…受け入れ  
なくては…



…現実を



このまま  
従順にしていれば  
命だけは助かる



…ひとつ  
確信出来ることがある

コイツは  
宿主である私を  
殺す気はない



考えるまでも  
ないわね…  
もっと早く  
決断するべき  
だったわ…



…一生化け物の  
奴隷として…?  
…フフツ

ならお前も  
道連れだ……!

くたばれ……!

明らかな  
弱点に思われる  
触手体の眼球は

実は最も  
堅固な部位であり

多少の衝撃では  
傷一つつけられない

…え?

…やったの?!

…やった…?

…





宿主の無意味な抵抗を  
ある程度は許容していた  
触手体だったが

徹底的に  
分からせなくては

一線を越える  
ならば仕方がない



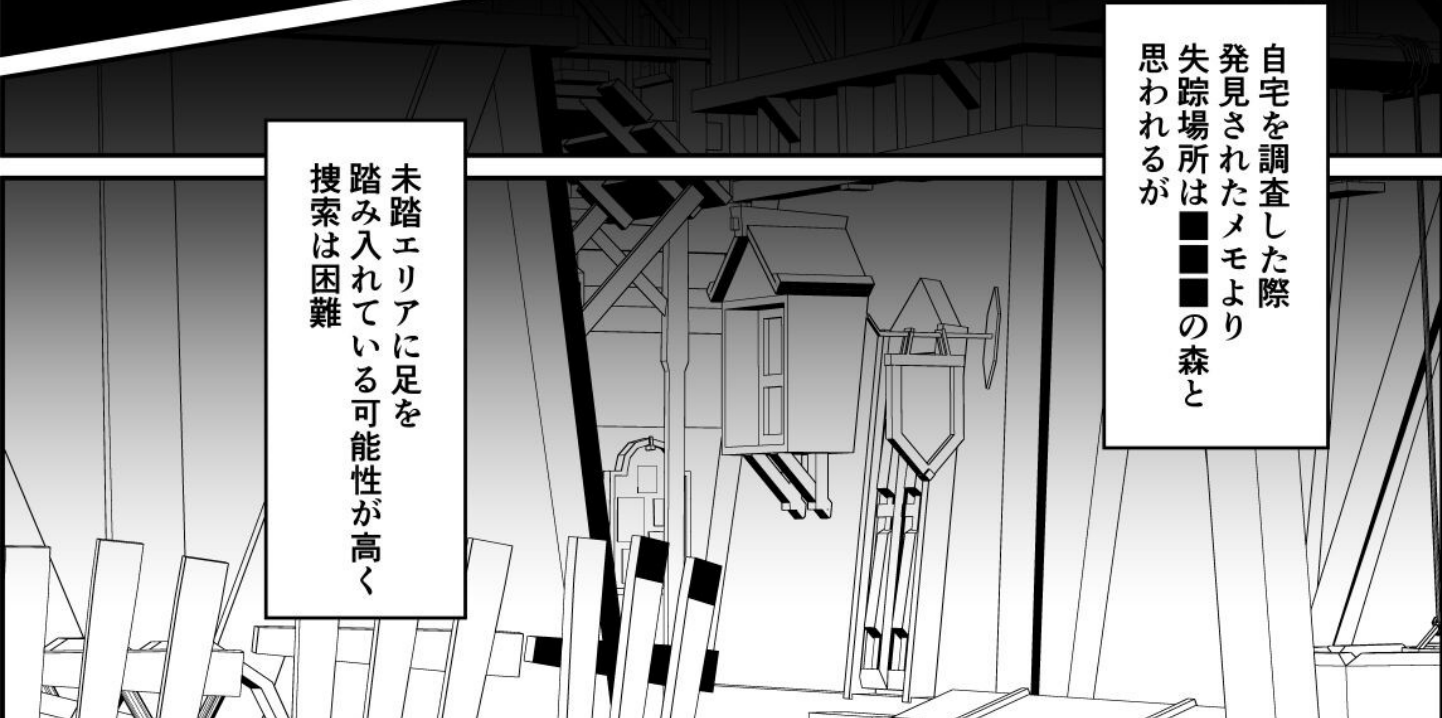


二等級冒険者  
魔術師ステラ

消息不明

自宅を調査した際  
発見されたメモより  
失踪場所は■■■■の森と  
思われるが

未踏エリアに足を  
踏み入れている可能性が高く  
搜索は困難





一応  
見ておきますか

ここは地図には  
載ってないけど…

あら



こういうところに  
レアアイテムが  
眠ってたりするのよね〜

ふーん  
中は  
結構広いじゃない



誰か  
いるの…?

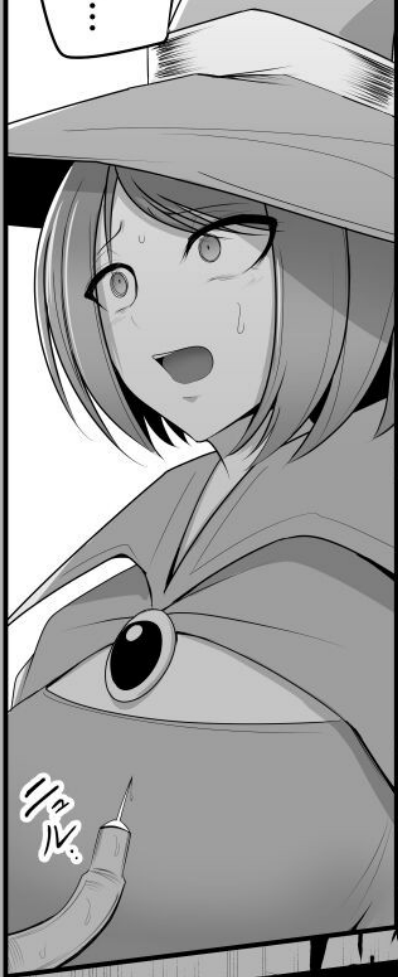
だ…

!

なっ…  
何…これ…

寄生…されてる…?  
今助け…いや…  
どうやって…

私じゃ無理だ…  
街へ戻って増援を…



あ…



発行日： 2023/04/01  
サークル： Pitapita  
Twitter： @PitaPita\_Pi  
pixiv ID： 44433394

**ご意見ご感想あればお気軽にどうぞ。  
If you have any comments, please feel free to contact me.**